

「京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン（案）」に関する
市民意見の募集

1 市民意見募集の概要

(1) 募集期間

令和7年12月25日（木）～ 令和8年2月2日（月） 40日間

(2) 意見数

意見者数： 589人

意見数：1,924件

(3) 意見をいただいた方の属性

ア 年齢

～19歳	20歳代	30歳代	40歳代
113人	343人	11人	15人
50歳代	60歳代	70歳代	不明
14人	11人	19人	63人

イ 居住地

京都市内	京都市外	不明
208人	292人	89人

2 御意見の要旨と御意見に対する本市の考え方

別紙のとおり

御意見の要旨と御意見に対する本市の考え方

1 第1章 本ビジョンについて【383件】

	意見	件数	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民参加推進」と「地域コミュニティ活性化」を一体的に捉え直し、これまでの計画を統合して長期的な視点で整理している点は、市民にとっても分かりやすい。 ・地域コミュニティを行政主導ではなく、市民一人ひとりの主体性を重視して捉え、「自分たちのまち自分たちでつくる」という考え方に強く共感する。 ・行政が単なる支援者にとどまらず、多様な主体をつなぐ「結節点(ハブ)」として機能しようとする姿勢は、複雑化する地域課題の解決に不可欠。 	196	<ul style="list-style-type: none"> ・京都ならではの歴史や文化、住民自治の伝統、市民が誇りを持って率先してまちをつくるといった、まち柄を土台として、多様な主体が交ざり合い、対話し、つながりを深めながら、社会総がかりで本ビジョンを推進してまいります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・京都特有の地域文化を「知る・関わる入口」として、若者が自然に地域に入れる工夫を。 ・大学と地域、企業、行政が連携し、授業やフィールドワーク等を通じて学生が継続的に関わりたくなる実践的な学びの仕組みを作ってほしい。 ・従来の自治会活動にはなじみにくい若者世代向けに、テーマごとやプロジェクト型で一時的に関われる参加機会を増やすべきである 	114	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生のまち」である京都の特性を活かし、若年層や単身世帯、転入者がもっと地域に関わりやすくなるような仕組みづくりを進め、若者・学生・新住民などの参加促進、連携強化を進めてまいります。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・深い関わりを好まない若者も多く、程よい距離感で交流できる「ゆるやかなつながり」を重視する方向性は非常に魅力的である。 ・短い時間や単発でも地域に関わることができるようにすれば、忙しい現役世代も参加しや 	49	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をきっかけとした参加や時間や場所に縛られないデジタル技術の活用など、参加のハードル引き下げと多様な関わり方を進めてまいります。

	<p>すくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントやボランティア情報が分かりやすく、時間や場所を問わずに参加できるデジタル化を推進してほしい。 ・共働き世帯などで地域活動への参加自体が難しい市民や、「参加したくない人」にも、自然に関心を持てる視点が重要である。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・写真がどの文章を補完しているのかわからない。 ・全体的に抽象的な表現が多く、市民にとって具体的に何がどう変わるのかが見えにくい。 ・「行政に求められる役割」に記載の「広い意味での『公』を担う」の意味がわからない。 ・自治会加入率の低下や担い手不足について、現状認識にとどまらず、要因を丁寧に整理すべき。 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・写真へのキャプションや掲載位置の変更により、より分かりやすくなるように修正を行いました。 ・「広い意味での『公』を担う」を削除した上、文章を修正しました。 ・地域の実情やその背景については、資料集にその概要を記載しており、地域の実情を踏まえて、取組を推進してまいります。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリック・コメントや審議会といった制度が存在していても、大学生や若年層には参加のイメージが湧きにくいため、SNSなどを活用して活動の様子を可視化し、周知を強化してほしい。 ・市民参加の取組が実際に行われていること自体が知られていない場合が多いため、学校の授業で取り入れたり、地域での広報を強化するなど、知る機会・きっかけづくりが重要である。 ・パブリック・コメント等で意見を出した後に、それがどのように扱われ、政策にどうつながったのかを分かりやすく発信・提示する仕組みがないと、継続的な参加につながらない 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が市政に参加することは、市民参加の重要な柱の一つであり、この間の着実な制度運用や情報発信により、少しずつ市政参加をする市民が増えてきたところです。いただいた御意見を参考にして、市民にわかりやすい情報発信をはじめ、更なる市政参加の推進に努めてまいります。

6	・「新たなビジョンの策定」の末尾は、「～実現するため本ビジョンを策定します。」とした方が文章として自然。	1	・ご指摘を踏まえ、修正しました。
7	・「ビジョンの位置付け」の表中「各分野別計画」に人権を追加すべき。	1	・ご指摘を踏まえ、修正しました

2 第2章 目指す姿【356件】

	意見	件数	回答
1	<p>(ゆるやかさや余白について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジや創造を生む考えが非常に良いと感じた。 ・参加の形を固定しない状況に応じた関わり方は今の時代に合っている。 ・従来の義務的・固定的なイメージではなく、多様な生き方や事情を抱える現代社会に沿う方向性だ。 ・予測困難な時代において、行政主体ではなく「市民一人ひとりの主体性」と「多様な関わりしろ」を核に据えている点分かりやすい。 ・「自分たちのまちは自分たちでつくる」という自治意識を、義務感ではなく「好き」という愛着から引き出そうとするのがいい。 ・関わる「余白」を感じるということは住民にとってその地域が居場所となっているということにより捉え方だと思った。 	209	<ul style="list-style-type: none"> ・社会背景が大きく変わる中で、画一的な制度や取組では解決できない課題に対しては、市民の皆さまや地域を構成する多様な主体、行政が、協働・共創しながら取組を進めていくことが必要と認識しています。 <p>いただいた御意見を参考にして取組を進めてまいります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりは特別な人だけが行うものではなく、日常の中での小さな参加や関心の積み重ねによって形づくられるものだと感じた。 ・学生にとっても、最初から深く関わるのではなく、行事や日常の中で少しずつ関われることは参加のハードルが下がる。 ・転入する学生や新住民には、そもそも町内会等の存在や活動内容が届いておらず、参加の入口やきっかけが不足している。 	122	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のビジュアル化等による参加の入口の見える化や、多様な背景を持つ方にも情報が届きやすい工夫を行うなど、より多くの人にまちづくり活動に参加いただけるよう、取組を進めてまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の壁のある外国人住民を含め、多様な人々が疎外感を感じず、無理なく関われるオープンなコミュニティづくりを期待する。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿はとていいが、理想論過ぎる。 ・「ゆるやかさ」や「余白」といった言葉は魅力的だが抽象度が高い。実際の地域活動の場面でどのように実現されるのか、市民が具体的に何をすればよいかのイメージしにくい。 ・5～6 ページの矢印の意味が分かりにくく言葉と絵が連動していないため、市民に伝わりやすい表現に見直すべき。 	16	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿に向けて取組を進めていくためには、大切にしたい視点を持ちながら、具体的な地域事情を踏まえて取組を進めていくことが重要であると認識しています。 ・本ビジョンにおいては、「つながる」「支え合う」「創り合う」の3つの目指す姿に向け、12の取組の方向性を示しています。第2章ビジョン5ページの「みんなで目指したいこれからのまちの姿」、「目指す姿を描くうえで大切にしたい視点」、ビジョン6ページの「目指す姿」の関係がわかりにくかったため、文章の修正・追記等を行いました。
4	<p>「ゆるやかで、しなやかな地域社会」はまさに今後の地域の在り方だと思う。孤独や孤立は、一律の制度では解決しない。一人ひとりに寄り添うことが大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の日本の孤立する社会には「気づく」ということも大切になるのではないかと思う。 ・やりたい人、やれる人同士がつながることは、もう充分やれている。一方で、孤独や孤立の社会問題は、信じられないぐらいのスピードで進行しているので、みんなでよってたかって本気で何とかしないといけない。 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・孤独や孤立を感じる人が減り、誰もが喜びや生きがいを感じられるためには、市民の皆さまや地域を構成する多様な主体、行政が、協働・共創しながら取組を進めていくことが必要と認識しています。いただいた御意見を参考にして取組を進めてまいります。

3 第3章 アプローチ及び取組例【370件】

	意見	件数	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所で行政に関われるアプローチのような方法があれば、市民参加が推進される。 ・興味がある人だけでなく、給料を出すことで参加者を増やすべき。 ・参加のハードルが低く、若い世代も興味や日常の延長でまちづくりに関われる工夫があるとよい。 ・行政の活動をわかりやすく可視化できれば、市民の興味関心が高められる。 ・消防団の活動の見える化・魅せる化により、イメージを変え人手不足解消を進めて欲しい。 ・行政だけで取組を進めるように見える。 	108	<ul style="list-style-type: none"> ・参加の促進には、参加の入口の情報発信、興味・関心をきっかけとした参加や楽しみながら関われる工夫、主体的・継続的に関わりやすい機会の創出などが重要であると認識しています。市民の皆さまが主体的・継続的に参加できるよう取組を進めてまいります。 ・行政だけで取り組むのではなく、行政と市民との協働により取り組むことを明確にするため、冒頭文に、地域にお住まいの方々や京都に関わる方々がまちづくりの主役である旨を記載するように修正しています。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・若者・学生も地域活動に参加し、市民が支え合う豊かなコミュニティづくりが良い。 ・高齢者と若者の価値観をすり合わせることで、地域の多世代交流につながる。 ・地域や市民同士の連携が重要である。 ・デジタルの活用と関係人口へ着目しているが、多様な参加を得るためには、地域活動の魅せる化と参加の入口の見える化が必要である。 	100	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代・学生を含めた多様な主体が交ざり合い、対話し、つながりを深め、社会総がかりで協働することが重要だと認識しており、行政と市民との連携にとどまらず、市民同士の連携も推進してまいります。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用し、幅広い世代に活動状況を発信することが重要。 ・デジタルでの発信は若者には有効であるが、高齢者には難しい可能性もあるため、デジタルとアナログを融合させた取組が必要。 	42	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加促進には、市民の皆さまにしっかりと情報を届けることが重要であると認識しています。そのため、情報発信に関しては、SNS等のデジタルツールを活用するとともに、デジタルとアナログを対象や場面に併せて使い分けるなどの工夫も行ってまいります。

4	<ul style="list-style-type: none"> ・取組例が実行されることを期待する。 ・現代の生活に即した取組例であり、方向性に共感できる。 	34	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの策定後についても、いただいた御意見を参考にして、着実に取組を進めてまいります。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化により多様な交流が生まれる。 ・高齢者のデジタルデバインド対策が必要である。 ・学生が高齢者のデジタル支援を行うなど、世代を超えた交流が重要になる。 	18	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルツールの活用に当たっては、デジタルデバインド対策も行いつつ、デジタルツールの活用が、世代を超えた交流、多様な主体の交ざり合いにつながるよう、工夫しながら取組を進めてまいります。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・余白やゆるやかさを大切にしたまちづくりが良いと思う。 ・多様性を認め合い、つながり、支え合う姿勢が若い世代にも安心感を与える。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるやかさ、しなやかさ、余白を大切にしつつ、目指す姿である「つながる、支え合う、創り合う」の実現に向けて、着実に取組を進めてまいります。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動を見える化、魅せる化し、市民に知ってもらうことで、つながりを生み、市の活性化にもつながる。 ・京都市民以外の方が参加することにより、市民意見が無視されることにつながらないか。 	14	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で取り組まれている活動をしつかりと発信することにより、京都市民にとどまらず、京都市以外にお住まいの関係人口・交流人口の方々にも参加していただくことを目指して取組を進めてまいります。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な拠点の活用と、若者の気軽な参加とスキルを活かせる環境づくりが重要である。 ・区役所や図書館等の公共施設の活用は、市民参加の促進につながって良いと思う。 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティや市民参加の推進に向けて、気軽につどい、つながる場として、身近な拠点や公共空間を活用した参加の機会づくりと場づくりを進めてまいります。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の加入促進策が必要である。 ・活動を可視化し、参加しやすい社会を作ることが不可欠である。 ・市職員と市民が結節点となり、分断を解消することが必要である。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化には、活動のビジュアル化、活動の入口の見える化や、気軽に参加でき、主体的・継続的に関わりやすい機会づくり、行政や市民が結節点となり、対話を重ね、つながりを紡ぐことが重要であると認識しております。いただいた御意見を参考とし、着実に取組を進めてまいります。

10	<ul style="list-style-type: none"> ・取組例の列挙により、イメージしやすい。 ・具体的な取組例が掲載され、参加しやすい、短時間で参加できるといった参加の入口を明確にできるとよい。 ・「わくわく」、「もやもや」に説明があるのではないか。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加の促進につながるよう、今後とも、市民の皆さまにわかりやすい情報発信に努めてまいります。 ・「わくわく」、「もやもや」については、「わくわく（興味・関心）」、「もやもや（言葉にならない困りごと・違和感）」と説明を補記しています。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所には、地域の Hub として機能しつつ、相談しやすい雰囲気作りと連携を形だけで終わらせない役割を期待する。 ・市民が主役のまちづくりに向けた多角的な方向性は評価できるが、実行性向上のための具体的な工夫や、担い手の負担軽減、挑戦を後押しする支援体制が必要ではないか。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・市民主体のまちづくりを推進するため、市役所・区役所が地域の結節点として機能しつつ、市民、地域団体、NPO、企業、大学といった多様な主体と協働し、社会総がかりで取組を進めてまいります。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・負担軽減に向けた、自治会の役割の抜本的改革が必要。 ・負担軽減と継続支援で、参加を更に促進すべき。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会等における負担軽減や継続支援については、アプローチ⑦地域活動への参加、アプローチ⑩行政協力業務のアップデート等に基づきしっかりと取り組んでまいります。

4 第4章 ビジョンの推進体制【282件】

	意見	件数	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が Hub となることで、「とりあえず区役所に相談してみる」と初めの一歩が出しやすくなる。 ・区役所・支所等と局等の連携が重要である。区役所が「つなぐ」役割を担い、行政だけで完結しない姿勢は納得感がある。 ・サークル活動で地域の方との連絡調整がうまくいかなかった経験があり、行政と連携することで失礼のないコミュニケーションや課題解決につながると感じた。 ・手続きだけでない区役所の役割をはじめて知った。 ・つなぎ役は行政だけではない。地域にもたくさんいる。 	144	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や地域の多様な主体の結節点となれるよう、相談しやすい環境づくりに取り組むとともに、地域でつなぎ役を果たされている皆さまとの連携も深めてまいります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・京都の強みである大学や学生を行政がつないでほしい。 ・大学・学生との連携・交流機会の増加が必要である。関係人口・交流人口を増やし、地域とのつながりを持つ必要がある。 ・大学生は4年で卒業してしまうため、継続性を持たせるにはコーディネーターが不可欠だ。 	119	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や学生の皆さまをはじめ、地域の多様な主体と協働して取組を進めていけるよう、市役所・区役所が結節点としての役割を果たしてまいります。
3	<p>市民が政策の形成過程に関われる仕組みや、市民への意見聴取と意見反映の仕組みが必要である。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでから、審議会の公募委員、パブリック・コメント、ワークショップ手法を取り入れた事業の推進など、市民が政策の形成過程に関わり、意見を述べ、それを政策に反映するといった取組を進めてきましたが、引き続き、適切な市政参加制度の運営、市民が政策形成に関わる機会づくり等に努めてまいります。

4	<p>(図について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことがわからない。「地域住民主体の団体等と行政とのつながりを深めていきましょう」ということだと思うが、分かりにくい言葉や図を添えたら逆効果だと思う。 ・多様な主体と行政が、それぞれ別の枠組みで単に連携するだけのように見える。 ・図と矢印が分かりにくい。 ・多様な主体をひとまとめにするのではなく、多様な主体同士も連携して取り組んでいるような図にしてはどうか。 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体同士のつながりや、行政との関係性が分かりにくいとの声を踏まえ、修正しました。
---	--	---	--

5 第5章 区役所の役割・区役所像【300件】

	意見	件数	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所が、手続きや用事があるときだけ行く場所だけでなく、気軽に相談出来たり、地域の人と交流できたり、カフェのように親しみやすい空間になってほしい。 ・行政はサービスを提供する側、市民は受け取る側という関係をイメージしていたが、行政も市民と同じように地域を支える一員として描かれていると感じた。 ・区役所の実行体制の充実、人材育成、職員の負担軽減を進めてほしい。 ・積極的に地域に出向いて市民の声を聞く姿勢はとても大切。市民も「意見を言っていていい」「参加していい」と感じやすくなる。 ・各区の特性に応じた独自性を尊重しつつも、先進的な事例は区を越えて共有し、どの行政区でも質の高いサポートを受けられるような「開かれた区役所」の姿を追求していただきたい。 	143	<ul style="list-style-type: none"> ・区庁舎もつながりの場の一つであり、区庁舎スペースの有効活用を推進してまいります。 ・職員が積極的に地域に出向くことや、市民や多様な主体の皆さまが行きやすく、気軽に相談しやすい環境づくりに取り組むとともに、地域の実情に寄り添った支援等を行うことで、市民や多様な主体と共にまちづくりを推進する、市民に最も身近な行政機関である区役所の役割を果たしてまいります。 ・各区の先進事例を共有したうえで、各区の特性に応じたまちづくりを推進してまいります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・DX化で生み出した時間を専門性の高い対人支援や地域活動への参加にシフトさせる方針に賛成。区役所が単なる手続きの場ではなく、市民と共にまちを創る『拠点』へとかわると思う。 ・事務作業はデジタル化、効率化し、職員が直接市民の話を聞いたり、地域の問題を一緒に考える時間を増やすのがいい。 ・スマホで簡単に意見を届けたり、相談できるような、デジタルを活用した「つながりやすさ」を重視してほしい。 ・若者向けにSNSを活用してほ 	77	<ul style="list-style-type: none"> ・絶え間なくDX化を進めることで、「行かない」「書かない」「待たない」窓口の取組を推進し、市民サービスの向上に努めてまいります。あわせて、業務効率化を徹底的に進め、それにより生み出した時間や人員を、地域のつながりやむすび付きの結節点となる業務、包括的な重層的支援の業務、法改正や社会情勢に応じた業務増への対応など、市民サービスの向上につなげてまいります。

	<p>しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人向けのやさしい日本語や、高齢者向けのデジタルデバイス対策を実施してほしい。 ・平日に区役所に行けない人のためにも、土日や夜間の開庁、オンライン化を進めてほしい。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所の職員が楽しく、前向きに、主体的に働ける職場づくりを期待したい。 ・区役所には、まず話を聞いてもらえる、失敗しても大丈夫という雰囲気づくりがあるとよい。若者のアイデアや関心を、完成度よりもプロセスをみて、チャレンジしやすい環境を整えてほしい。 ・区役所の職員も、自分たちだけで余白をつぶさずに、もっと地域住民や活動団体などを頼ってもいいと思う。 ・区役所が地域に出向き、現場の声を政策に反映させる仕組みは重要である。 	65	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の皆さまをはじめ、地域を構成する多様な主体と接する中で、ニーズや困りごと、まちづくりへの思いなどを受け止め、皆様と共にまちづくりを進めるとともに、政策の形成にも活かしてまいります。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウェルビーイング」や「DX」などの用語が難解である。 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「ウェルビーイング」や「DX」は、言い換えや注釈を追加しました。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・DXや効率化だけが強調されている印象があるため、「人に投資する区役所」としての人材育成を打ち出してほしい。 ・区役所像5について、多様なニーズだけでなく、正解のない課題に対応することが余白の考え方に通じるのではないか。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘を踏まえ、区役所像5の記載内容を修正しました。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民の自主的活動の情報を収集し、市役所内、市民と情報共有する」といったことを記載してはどうか。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・御指摘を踏まえ、修正しました。

6 その他（計画全般等）【233件】

	意見	件数	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> ・義務でなく柔軟に関われる仕組み、無理なく関われる工夫が必要。 ・参加の方法やきっかけの発信が重要。 ・市民の意見を反映する仕組みが必要。 ・若い世代が無理なく参加できる工夫が必要。 	127	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代、学生を含め、多様な主体が交ざり合い、対話し、つながりを深め、社会総がかりで協働して取組を進めてまいります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンは、京都らしいまちづくりの姿を表しており、今後の取組に期待する。 ・地域コミュニティと市民参加の重要性が理解できる内容であった。 	32	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿の実現に向けて、しっかりと取組を進めてまいります。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・資料はイラストやグラフがあり見やすいので、これからもわかりやすい資料作りを続けて欲しい。 ・ページが多すぎず読みやすい。 ・市民に伝わりやすい言葉で表現して欲しい。 ・「社会情勢の変化」の令和（現在）に「平成の傾向が続く」との記載があるが、何の傾向かわからない。 	27	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの策定に当たっては、わかりやすく伝わりやすいビジョンとなるよう心掛けております。今後とも、市民の皆さまにとってわかりやすい情報発信に努めてまいります。 ・ビジョン13ページ「社会情勢の変化」中の令和（現在）に記載の「平成の傾向が続く」については、御指摘のとおりわかりづらい表現であったため、削除します。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの推進には、市民と関係人口・交流人口の相互理解や協力が必要。 	18	<ul style="list-style-type: none"> ・市内居住者に限らず、京都市に関わるあらゆる人の参加・協力を得られるよう、取組を進めてまいります。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町内会の負担軽減が必要である。 ・自治会の活性化には、地域外とも連携し、無理なく参加できることが重要。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加の促進や、行政協力業務のアップデートにしっかりと取り組んでまいります。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所が主体同士をつなぎ、まちづくりを進めることを期待する。 ・多様な人々が無理なく関われる市政を期待する。 	14	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加の推進に当たっては、多様な主体が交ざり合い、対話し、つながりを深め、社会総がかりで協働し、取組を進めてまいります。